

## 点検項目

1. 燃料：満タンである必要はありませんが、あまり少なくなるとコーナリングGにより燃料が偏り、ガス欠症状が出る事があります。少なくとも半分以上（出来れば 2/3 以上）有るようにしてください。最も近いGSまでは、ALT より 15分程かかります。
2. オイル：量が少ないとエンジンが壊れる事も有ります。目盛りの『E』以下の時はもちろん、『F』と『E』の間でも真中より『E』に近い場合は『F』付近まで足して下さい。また、汚れがひどい時は交換しておく事をお勧めします。（後でオイル代よりも大きな出費にならない様にしてください）
3. 冷却水：リザーブ（予備）タンクを確認して、『F』まで蒸留水などの補充液を入れて下さい。但し、エンジン、ラジエーター本体がまだ熱い時に確認すると、正確に測れないだけでなく大変危険ですので、エンジンやラジエーターが十分に冷えた状態の時に確認してください。また、普段の状態水温計の針がどの辺りを指しているか知っておくと、オーバーヒートした時に早く気付く事が出来ますよ。
4. タイヤ：空気圧を確認して、メーカー指定圧にしてください。（当サーキットでも確認、補充出来ますが、タイヤが冷えた状態で測ってください） タイヤに釘などの異物が刺さっていないか、亀裂が入っていたりしていないか確認して下さい。また、スリップサインが出ていた場合や、偏磨耗している場合は交換しておいてください。エアゲージをお持ちの方は、忘れずにお持ちください。
5. ホイール：ホイールナットの緩みが無いか？締め忘れが無いか？確認して、指定トルクで増し締めして下さい。（締めすぎも×ですよ）また、バランスウエイト（ホイールに付けている鉛）の上からガムテープで押さえておく事をお勧めします。（コース上の最も多い落し物のひとつです）
6. バッテリー：取り付け金具と、ターミナルの緩みが無いか？液量は十分か？確認してください。
7. ブレーキ、クラッチ、パワステオイル等：液量と、漏れが無いか？を確認して下さい。ブレーキオイルが減っている場合は、ブレーキパッド（またはブレーキシュー）が減っている可能性が有りますので、残り厚みの確認をしてください。
8. プラグキャップ：プラグキャップのある車は抜けかけていないか確認して、奥までしっかりと押し込んでください。（ダイレクトイグニッションの場合は、ねじ止め箇所の緩みを確認）
9. 窓ガラス（特にフロントガラスの内側）をキレイに拭いてください。汚れが残っていると太陽光が斜めから当たった時、ガラス全体が白くひかり大変危険です。特に喫煙車両の場合は要注意です。

### ・・・・・・・・・・・・・・・・ 当日の走行前に ・・・・・・・・・・・・・・・・

10. テーピング：ヘッドライト、テールレンズ、ウィンカー、フォグランプ等の補助灯には、破損時の飛散防止の為、ビニールテープ等で×印(大きな物には\*印)のテーピングをして下さい。
11. 当日お渡しするゼッケンを、車体両側に貼っていただきます。雨天時はタオル等を御用意いただき、水気を良く拭き取ってください。
12. 不要な荷物は降ろしてください。スペアタイヤ、ジャッキ等はしっかりと固定しておくか、駐車場の各自の枠内に降ろしてください。ダッシュボード上や窓に付けた小物は、視界の妨げになったり、走行中に落ちたりして危険ですので、出来るだけ取り外してください。

### ————— ご注意下さい —————

- ☆ 裸足、サンダル履き等は禁止です。 走行中は、踵の低い運動靴等を履いてください。
- ☆ 当日は『同乗走行』が有りますので、助手席への乗車が可能な状態にして御参加ください。
- ☆ 『同乗走行』の為、オープン走行時には 助手席側にも4点シートベルトが必要になります。  
（ 屋根を閉じた状態で走行する場合には、一部の車両を除いて 必要有りません ）
- ☆ 雨天の場合、雑巾を持参していただき、乗車時に靴底をよく拭いて、ペダルが滑らない様にしてください。